

島根大学

生物資源 科学部

2022
学部案内



SHIMANE
University
人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

生命科学科

農林生産学科

環境共生科学科

「いのち」あふれる地球を育む



豊かな自然に接し、 生き物の素晴らしさを共に学ぼう



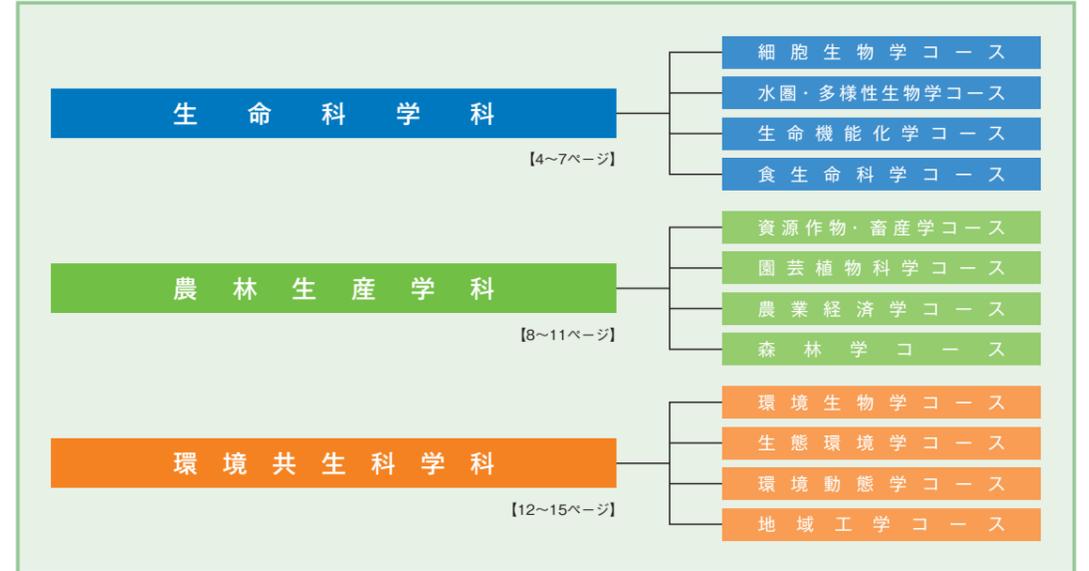
生物資源科学部では、生命科学科、農林生産学科、環境共生科学科の3つの学科において、それぞれ「生命」「生産」「環境」を代表課題とする特徴的な教育研究活動を進めています。3つの学科間では協力体制を組み、附属生物資源教育研究センターを中心にフィールド教育を進め、専門知識、技術力や研究力を育みます。卒業研究では、現場での問題発見や解決能力を養うことで、先端技術を身につけ、地域社会の発展と環境調和型社会の確立に貢献できる人材を養成します。これまでに積み重ねた70年の教育実績を基盤として、広い視野を持った世界に活躍できる学生を育てていきたいと思っております。

島根県松江市は水の都として、宍道湖に接し、日本海や大山にも近く、隠岐諸島には臨海実験所もあり、豊かな自然環境に恵まれた町です。教育研究の場も講義室や実験室に留まらず、フィールド教育に力を入れています。持続可能な社会の構築を目標とし、地域や世界で活躍することを目指しているみなさんを、90人の教員がお待ちしています。

島根大学 生物資源科学部長 **川向 誠**
KAWAMUKAI Makoto

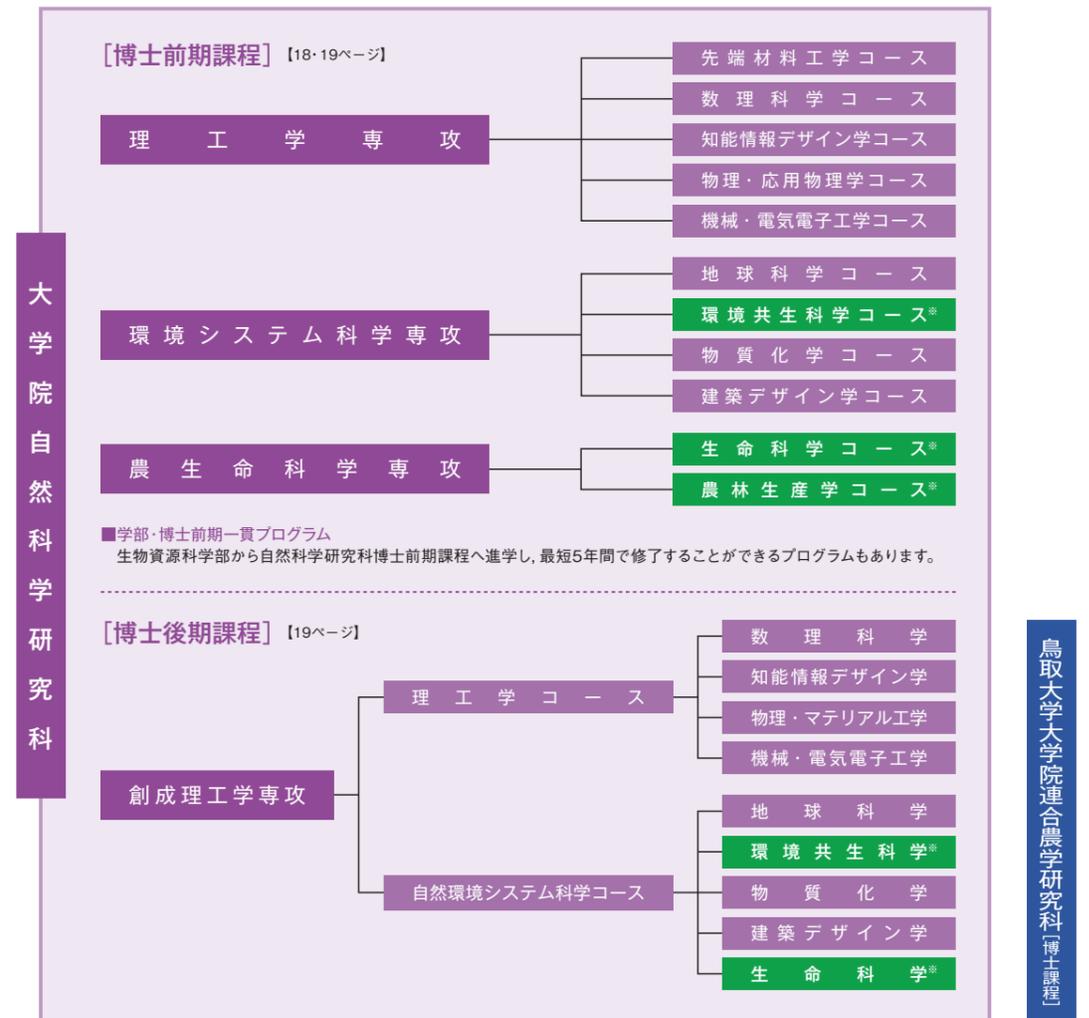
生物資源科学部の構成

3つの学科と附属センターで構成されています



大学院の構成

専門性を磨くために
大学院への進学も可能です



鳥根大学大学院連合農学研究所「博士課程」

※生物資源科学部の各学科からは、博士前期課程のうち主に環境共生科学コース、生命科学コース、農林生産学コースへの進学となります。続けて博士後期課程へ進学した場合は主に環境共生科学分野と生命科学分野への進学となります。

沿革

- 1947年 ●島根県立農林専門学校設置
- 1949年 ●新制島根大学設置
- 1965年 ●島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置
- 1971年 ●大学院農学研究科を設置
- 1995年 ●農学部と理学部を改組し、生物資源科学部を設置
- 2000年 ●大学院生物資源科学研究科を設置
- 2004年 ●国立大学法人島根大学となる
- 2008年 ●生物資源科学研究科5専攻体制から3専攻体制に改組
- 2012年 ●生物資源科学部を5学科体制から4学科体制に改組
- 2018年 ●生物資源科学部を4学科体制から3学科体制に改組
生物資源科学研究科と総合理工学研究科を改組し、自然科学研究科(博士前期課程)を設置
- 2020年 ●自然科学研究科(博士後期課程)を設置



生命科学科



[学科HP]

生命科学の探求

生命科学科では、微生物から動物・植物に至る多様な生物が示す様々な生命現象についての基本的な理解と根本原理の解明をめざすとともに、これら生物が有する様々な有用機能を食品・化学工業、医薬・農薬製造業などの生物・化学産業に役立てるための教育と研究を行います。生命現象の不思議さを追求し応用する過程を通し、論理的思考力、問題解決能力を身に付け、社会で活躍するための資質能力を向上させることができます。

- 卒業後の進路**
- 大学院進学(修士・博士課程)
 - 中学・高校教員
 - 国家・地方公務員
 - 教育・研究機関職員
 - 製薬・食品会社
 - 環境関連産業
 - 動物及び植物などを扱う関連施設(水族館・動物病院・多機能型牧場など)
 - 食品、医薬、化学工業、農林水産業などの技術者、研究者

活躍する卒業生

阪大微生物病研究会
出水 優花さん
2021年(令和3年)3月卒業



私は現在、阪大微生物病研究会でインフルエンザワクチンの原液製造に携わっています。「人々の命を守る」という役割にやりがいと責任感を感じています。

生命科学科では、生物や化学を中心に幅広い分野を網羅でき、様々な知識・考え方を身に付けることができました。また、卒業研究では、高麗人参の機能性成分“ジンセノイド”の乳酸菌を用いた機能強化について研究し、課題解決の難しさやそれを乗り越えた時の達成感を味わうことができました。

生命科学科での学びは一生の財産です。ぜひ、自ら積極的に学び、素晴らしい学生生活を過ごしてください。

concept 教育の特色

生命科学科では、生命科学の基礎から応用まで幅広くしっかり学べるように、授業の種類を豊富に用意しています。1年次には基礎科目や生命科学基礎セミナーで基礎学力を涵養し、さらに2年次からは特色のある4つの教育コース「細胞生物学」、「水圏・多様性生物学」、「生命機能化学」、「食生命科学」のうちのいずれかの教育コースを選択することで、より専門的な知識を身に付けることができます。「細胞生物学」と「水圏・多様性生物学」の2コースは連携しており、生物学を基礎とした理学的教育に重点を置いた生物系カリキュラムを提供します。生物系2コースは、附属生物資源教育研究センター海洋生物科学部門(隠岐臨海実験所)と連携しており、実験所の教員の指導のもとで卒業研究を行うこともできます。一方、「生命機能化学」と「食生命科学」の2コースも連携して、生物学と化学を基礎とし、生命の仕組みを食品・化学工業、医薬・農薬製造業などの生物・化学産業へと応用可能な農芸化学的教育に重点を置いた生命工学系カリキュラムを提供します。また、生命科学科は、総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門と教育・研究で連携しており、センター教員の指導が受けられる学際的卒業研究も行っています。



選べる4つの教育コース

細胞生物学コース

細胞生物学コースでは、細菌や原生生物から動植物まで幅広い分類群を対象とし、それら生物が示す様々な生命現象を分子・細胞・組織・個体レベルで捉え、理解する能力を育み、ライフサイエンスの発展に寄与し、様々な分野で活躍する人材を育成することを目標にしています。生物の分子・生理・発生機構の分析を通して、現象の背後の論理を理解し、「How」に答えるための論理的な思考能力・観察能力・洞察力などを養います。

水圏・多様性生物学コース

日本海から宍道湖・中海を含む湖沼河川で多様な水域とその周辺の陸環境がもつ豊かな生物多様性を基礎科学の観点から捉え、理解する能力を育み、生物資源の持続・有効利用と環境保全に寄与し、この分野を牽引する人材を育成することを目標にしています。生物多様性の進化・維持機構及び生態系における多様性の機能を実験・観察・数理的分析を通して理解することで、「How」や「Why」に答えるための論理的な思考能力を養います。

生命機能化学コース

生命現象は、生命体内に存在する多様な分子の動きが複雑に組合わさることで引き起こされます。そのメカニズムを生物と化学の両方の視点から理解し、有用な機能として医薬系や化学系の分野に応用する知識と技能を有した人材の育成を目指します。生物学、化学及びその融合分野の基盤的・専門的科目を重点的に履修します。

食生命科学コース

食品に含まれる栄養成分や有用成分を人体が活用する仕組み、食料の生産に寄与する生命の仕組みなど、食に関係する生命現象を理解し、食品やバイオテクノロジーの分野に応用する技能を有した人材の育成を目指します。生物学と化学に関する基盤的科目に加え、食品、栄養、微生物、細胞培養などに関する専門科目を履修します。

curriculum カリキュラム

生命科学科では、1年次に自然科学系学部共通科目及び基礎科目を履修した後、2年次からは、生物学を主体とする2コース(細胞生物学コース、水圏・多様性生物学コース)及び生物学と化学を主体とする2コース(生命機能化学コース、食生命科学コース)のいずれかのコースに所属して専門教育を学びます。3年次後期からは各研究室に配属され、卒業研究の実施に向けた活動が始まります。



履修モデル

	1年次	2年次	3年次	4年次
細胞生物学	自然科学系学部共通科目 基礎科目(生物学、微生物学他)	全学共通教育科目 専門科目 (発生生物学、植物生理学、動物生理学、免疫学、植物分子生物学、形態形成学他)		卒業研究
	基礎セミナー	実験/セミナー	実験/セミナー	
	水圏・多様性生物学	自然科学系学部共通科目 基礎科目(生物学、化学、動物学他)	全学共通教育科目 専門科目 (水圏・多様性生物学特論、生態学通論、水圏生態学、進化遺伝学、海洋生物学、多様性植物学他)	
生命機能化学	自然科学系学部共通科目 基礎科目(化学、有機化学、物理化学他)	全学共通教育科目 専門科目 (生命機能化学特論、化学生物学、情報生物学、生物有機化学、生命分子分光学、分子認識化学、生物制御化学、バイオインテグレーション他)		卒業演習 卒業研究
食生命科学	自然科学系学部共通科目 基礎科目(生物学、植物学、微生物学他)	全学共通教育科目 専門科目 (分子生物学、食生命科学特論、食品微生物学、食品衛生学、食品機能学、食品バイオテクノロジー、動物細胞工学、遺伝子工学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー	実験/セミナー	実験/セミナー	





ミクロな視点から 生命現象を 科学する

細胞生物学コース

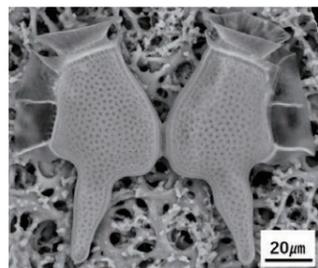
1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して細胞・遺伝子・タンパク質など、ミクロな視点から生物を理解するための実験技術を修得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身に付けていきます。3年次の後期には研究室分属が決定し、4年次の卒業研究では、植物・動物・微生物の分子・生理・発生・細胞機構における研究を行い、ミクロな視点から生命現象の謎に迫ります。

【細胞生命の研究】

モデル植物における分子の役割、動物の網膜の分子生理機構、両生類の再生・変態・細胞死、毛周期、原生動物の細胞運動、細胞内共生の成立機構、脊椎動物の体液調節機構、イネによる土壌浄化など、分子・細胞・組織レベルの生命現象に関する研究を行っています。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員 ●食の6次産業化プロデューサー



(写真上) ミドリゾウリムシ
(写真左) 渦鞭毛藻類 ディノフィシス



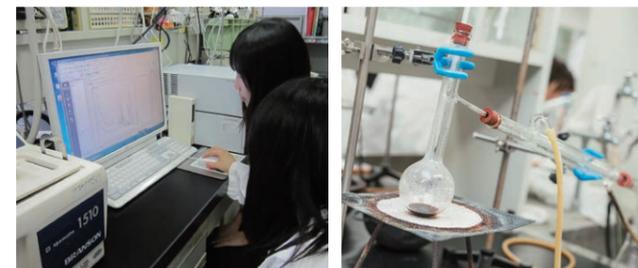
分子レベルで 生命現象を 解明する

生命機能化学コース

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。生物学と化学の融合領域として化学生物学、光情報生物学、生物有機化学、生物制御化学、分子認識工学などを、また、応用領域として農業化学、植物細胞工学、バイオシグナル工学などを履修します。一方で、この間、基礎から専門に至る12種類の実験科目を受講します。3年次後期から研究室に所属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、生体分子に関する分子分光学的研究、分子が互いを識別する原理の解明、脱皮・変態・休眠・相変異などの昆虫内分泌の解明、神経伝達物質受容体に作用する新規リガンドの合成、昆虫幼若ホルモンの作用機構、活性酸素種の代謝、植物におけるビタミンCなど抗酸化物質の合成や生理作用、補酵素の代謝調節機構などの研究が活発に行われています。大学院生はもとより、4年生が学会発表することも珍しくありません。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員 ●食品衛生管理者 ●食の6次産業化プロデューサー



マクロな視点から 生命現象を 科学する

水圏・多様性生物学コース

1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して行動・生態・進化など、マクロな視点から生物を理解するための実験・野外調査・理論の技術を修得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身に付けていきます。3年次の後期には研究室分属が決定し、4年次の卒業研究では、隠岐諸島や宍道湖をはじめとした山陰の生態系にみられる動植物の進化・生態学的研究を行い、マクロな視点から生命現象の謎に迫ります。

【進化・生態の研究】

動植物の遺伝的分化・系統進化、島嶼生物の保全遺伝、環境DNAを用いた生物モニタリング、頭足類や哺乳類の生殖機構、生物多様性の進化・維持機構の理論分析など、個体から生態系レベルまでの生物現象について進化・生態学的な研究を行っています。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員 ●食の6次産業化プロデューサー



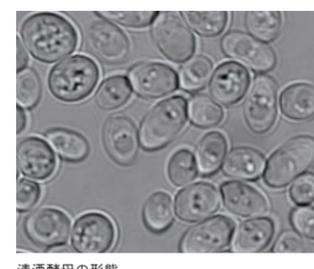
食に関わる 生命現象を 解明する

食生命科学コース

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。食の生命科学に関する基礎領域として、食生命科学特論、食品生化学、食品衛生学、食品微生物学、栄養生命科学などを、また、応用領域として食品バイオテクノロジー、食品機能学、動物細胞工学、食分子細胞生物学などを履修します。生命機能化学コースと共通の12種類の実験科目も受講します。3年次後期から研究室に所属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、脂肪細胞を用いた肥満のメカニズムの解明、脂肪酸由来生理活性物質の生合成機構、動物培養細胞を用いた生理活性物質の作用機構、腸内細菌の生理機能、脂溶性機能性食品成分の生体利用性、植物のタンパク質輸送因子、コエンザイムQ10の生産、ストレス応答、穀物の栄養成分の蓄積機構などの研究が行われています。学生が学会で研究発表することもよくあります。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員 ●食品衛生管理者 ●食の6次産業化プロデューサー



清酒酵母の形態



酵母の発酵試験

農林生産学科



[学科HP]

農林業による豊かな暮らしの実現

農林生産学科は、農林業生産による豊かな人間生活の実現を目指して、農産物及び林産物に関する持続可能な生産技術と経営・経済について教育と研究を行う学科です。資源作物・畜産学、園芸植物科学、農業経済学、森林学の4つの教育コースからなる本学科では、相互に連携したカリキュラムにより農林生産学全般を広く学びつつ、各コースの専門的な知識・技術の修得を図ることができます。自然、生物、食に関して興味がある人を求めており、将来、農林業自営、JAなどの農林業団体の職員、種苗・食品・医薬・環境・機械などの農林関連企業における技術職・営業職、国や地方の公務員、中学・高校の教員などとして活躍されることを期待しています。

- 卒業後の進路**
- 大学院進学(修士課程・博士課程) ●中学・高校教員
 - 国家・地方公務員
 - JA、森林組合、森林公社、食品、種苗、飼料、農薬、医薬、機械、住宅設備、造園、環境コンサルタントなどの農林関連企業・団体、農林自営業

活躍する卒業生

伸共木材協同組合
岩崎山太郎さん
2019年(令和元年)3月卒業

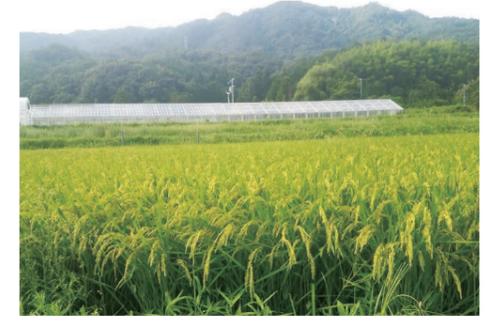


私は島根県で林業作業員として、主に伐採や架線集材をしています。架線集材とはワイヤーロープを使った集材方法の1つであり、車両の進入が困難な急峻な山でも木材の搬出が可能となります。

学生時代には農林業において害獣とされているシカの食性について研究をしていました。私は森林学コースに入るまで林業について何も知らない状態でしたが、講義や卒業研究を通して学んでいく内に林業、山で働くということに興味を持ち、現在の仕事に就いています。大学では様々な事を経験し調べることができました。その中で皆さん自身の興味を引くものを探してみてください。

concept 教育の特色

豊かな自然環境に恵まれた山陰地域という立地条件を活かしたフィールド学習を含む幅広いカリキュラムを通して、農林業とそれを取り巻く生態系と地域社会について総合的に学びます。さらに、農林生産学を代表する4つの教育コースのうちの1つを選択する2年次からは、先端的研究を行う教員による専門的な講義、実習、卒業研究の指導を通して、深い知識と高い技術を身に付け、農林業、食品、医薬、環境、地域、学術研究などに関わる将来の進路選択に備えます。



選べる4つの教育コース

■資源作物・畜産学コース

人の主なエネルギー供給源となるイネなどの資源作物及び家畜の肉、乳の安定的な供給と持続可能な生産を目的とした理論、技術を修得し、作物・動物の生産に特化した専門的な知識と理解を深め、それらに関する応用力を養うと共に、地域の農畜産物の生産現場に合わせた食料生産の向上を視野に入れた講義、実習、実験を行います。

■農業経済学コース

農と食のマーケティング、6次産業化、農家経営、農業の担い手、アグリビジネス、地域活性化、地域資源管理、途上国発展など、食料、農業、農村をめぐる諸事象について総合的に理解し、社会科学の視点から独自に考察・提案できる能力を備え、国内、国外、農村、都市を問わず持続可能な地域社会の創造に貢献できる人材を育成します。

■園芸植物科学コース

果物、野菜、花などの園芸植物を材料とし、植物資源開発、植物工場、園芸植物利用における専門知識について教育すると共に、地域の自然環境を活かした園芸植物の効率的生産、品質改良、6次産業化などに関するフィールド実習及び研究を網羅した特色ある教育を行うことで園芸生産や利用分野で活躍する技能を有した人材を育成します。

■森林学コース

私達の暮らしに欠かせない森林・林業について教育と研究を行います。森林の育成と保全・計画、林内環境、森林利用のための林業機械、地理情報システム・GPS・ドローン・人工衛星を利用した森林の調査と管理、森林を取り巻く政策・経済、再生可能なエネルギー利用、野生動物管理など、森林を総合的に学ぶことができます。

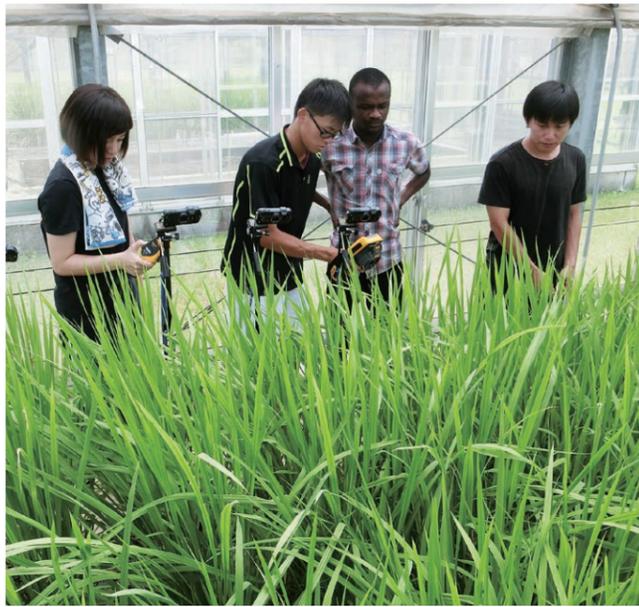
curriculum カリキュラム

農林業に関する広い視野を育む基礎セミナー及び実習から専門的な学びがスタートします。4つの教育コースに分かれる2年次からは、選択したコースの講義や実験・実習・セミナーを主に履修することにより、専門的な知識と技術の修得を目指します。また、各人の興味に合わせて、他コースの多様な講義やフィールド系の実習・セミナーなども履修します。4年次には、修得した知識や技術を活用し、発展させる力を養成する卒業研究に取り組みます。



	1年次	2年次	3年次	4年次
資源作物・畜産学	自然科学系学部共通科目 基礎科目(資源作物・畜産学概論他)			
	基礎セミナー・実習	実験/演習	専攻実験	英語演習 卒業研究
	専門科目 (資源作物学、農業と食育、家畜栄養学、動物内分生理学他)			
園芸植物科学	自然科学系学部共通科目 基礎科目(園芸生産学概論他)			
	基礎セミナー・実習	実験/演習	専攻実験	英語演習 卒業研究
	専門科目 (果樹園芸学、野菜園芸学、花卉園芸学、植物育種学、施設園芸学、6次産業化概論他)			
農業経済学	自然科学系学部共通科目 基礎科目(農業原論、経済原論他)			
	基礎セミナー・実習	セミナー/演習	卒業演習	卒業演習 卒業研究
	専門科目 (農業経済学、農業経営学、農政学、地域経済学、国際農村発展論、農学史他)			
森林学	自然科学系学部共通科目 基礎科目(植物学、統計学他)			
	基礎セミナー・実習	実験/演習	実験/演習	卒業演習 卒業研究
	専門科目 (森林計画学、森林統計学、森林ジオインフォマティクス、森林利用学、林政学他)			





農畜産物の生産性向上を通して人類の食を支える

資源作物・畜産学コース

国内外の農業は、地球温暖化に伴う環境変動、生産者の高齢化、関税の引き下げ・自由化に伴う国際競争といった多様で深刻な問題を抱えています。資源作物・畜産学コースでは、人類の主たるエネルギー供給源となるイネ、ダイズ、サツマイモなどの資源作物やウシやヒツジといった家畜に焦点を当て、こうした自然・社会環境の変化に起因する農業問題の解決に貢献できる人材を育成します。1, 2年次において講義、実験、実習を通して農畜産物の生理・生態の特性や管理技術など、生産に必要とされる専門知識、理論、技術を学んだ上で、3, 4年次からは気象、土壌などが収穫量や品質に及ぼす影響の解析、有用微生物を利用した栽培技術の開発、動物の栄養・生理的な特性の究明、家畜飼料の開発、肉・乳の効率的生产及び品質向上を目指した研究に取り組みます。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー



食と農の現場を解明し問題解決に貢献する文理融合型の農学

農業経済学コース

生物資源科学部の中で唯一、社会科学を広く学ぶことができるコースです。1, 2年次には、農村見学、農村調査分析論、食農市場セミナーで社会調査を経験します。2, 3年次には、経済学の基礎理論を端緒として、食・農業・農村の問題解決に向けた経済学・経営学・政策学・社会学・歴史学などの応用理論を学びます。3年次からは、各自の関心や目的に合った研究室に所属し、教員の指導の下、学生自らが研究テーマを設定し、フィールド調査や文献調査を行い、科学的分析・論考を重ねて、卒業研究にまとめていきます。基盤科目で自然科学の科目を広く選択できる他、農学に関する科目を専門科目として履修でき、農業関係の職に就きやすいように配慮されています。また、文系・理系両方の分野を学んだことを就職活動の強みにすることもできます。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー



園芸植物の高付加価値化の実現

園芸植物科学コース

人々が豊かな生活を送る中で、園芸作物に対する色、形、香り、そして食味などの様々なニーズが増加しています。また、消費者の健康や食の安全、地域ブランドに対する関心の高まりもあります。園芸植物科学コースでは、ブドウ、カキ、メロン、イチゴ、ダイコン、トマト、サクラ、ツツジといった果物、野菜及び花を主な対象とし、栽培管理・作型、育種・遺伝資源、貯蔵・加工、機能性・特産品開発などについて学びます。1, 2年次において講義、実験、実習を通して園芸植物の生理学や遺伝学の基礎的知識をはじめ、育種法や栽培技術に関する専門知識を学びます。3年次からは課題研究に取り組み、栽培試験や品質調査をはじめ、機能性成分分析や遺伝子解析なども行い、園芸植物の品種開発や高付加価値化に向けた栽培・加工技術の改良を目指します。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー



森林の育成と保全、林業の発展に貢献する

森林学コース

1年次には大学4年間の基盤となる科目と共に、農林生産学科の入門科目を履修します。2年次になるとコースに所属し、森林学の講義に加え、大学の演習林や地域のフィールドに出て実習を行います。それは3年次になるとより専門化し、一方で、専門と専門を繋いだ応用編としての実習に引き継がれます。同時に、セミナー形式で自らの興味を掘り下げていき、卒業研究のテーマを考えていきます。本コースは、卒業研究を必修としています。3年次の前期から卒業研究の計画を始め、調査・研究を行い、4年次の秋に中間発表、冬に卒業論文を書き上げ、最後に4年間の成果として発表会を行います。森林学を総合的に学び、自ら卒業研究に取り組むことで、森林・林業関連の公務員、事業者の職員として必要な力を身に付けることができます。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 森林情報士(森林GIS部門)
- 食の6次産業化プロデューサー



環境共生科学科



[学科HP]

環境調和型社会の構築を目指して

環境共生科学科では、土・水・生物などの資源と環境を適切に保全・管理しつつ持続的に利用していく環境調和型社会の構築や、その実践のために必要となる専門知識や技術に関する科学と工学の両観点からの教育を重視します。学生の皆さんは、2年次から環境生物学・生態環境学・環境動態学・地域工学という、互いに重なり合いつつも特色ある4つの教育コースに配属され、多角的な視点から、地域の持続的な発展に貢献する様々な手法の修得を目指します。就職先には公務員、教員、機械・電機系の会社、IT関連企業、食品関連の会社、建設会社、技術コンサルタント会社、環境コンサルタント会社などがあります。

- 卒業後の進路**
- 大学院進学(修士課程・博士課程)
 - 中学・高校教員
 - 国家・地方公務員
 - 環境調査、緑化、水処理、食品、機械、建設、ソフトウェア開発などの各種企業や団体

活躍する卒業生

国土交通省 中国地方整備局 港湾空港部
 境港湾・空港整備事務所 浜田港出張所
大矢根 功季さん
 2021年(令和3年)3月卒業



海と触れ合う島根県で過ごすうちに港を整備する事業で中国地方を活性化させていきたいと思うようになり、港湾空港部に入省しました。現在は防波堤工事や岸壁改良工事並びに防波堤周辺海域における環境調査等の現場監督補助を行っています。学生時代はダム底質に生息する放線菌の研究を行い、主に陸園、水圏の様々な生態学の講義を受講していました。研究や生態学の知識を用いて港湾構造物建造業務の環境保全を考える事で、新たな気付きが生まれる時があるため、大学で学んだ知識が現在に生かされていると感じています。

concept 教育の特色

入学後に、まず共通の基礎となる科目を学んだ後、2年次に教育コースを決定します。そして各コースの発展的な科目や応用的な科目へ進んでいき、身近な生物や環境問題を科学的に捉える方法や、実社会で使われている工学を学ぶと共に、問題解決に必要な広い視野と実践的な技術を養います。環境共生科学科の全教員が4つ全てのコースに関わるため、幅広い内容が学べます。



選べる4つの教育コース

環境生物学コース

中山間地域の森林・里山から農耕地を経て、河川・汽水域に至る広域な環境に生息する生物を対象とします。植物の病気発生機構、昆虫の利用や防除、自然界での微生物の働き、森林の健全な育成と保全などに注目し、その生命現象と多面的な意義について履修します。持続的な農業や生物資源の利活用を目指し、環境と生物、生物と生物の相互作用に関する知識と研究手法を修得します。

生態環境学コース

ヒトと自然の共存や生態系の保全を目指し、生物が生息する水・土環境で生じる多様な現象とそのメカニズムを科学的視点から理解するための知識と方法について履修します。山・川・湖沼・海を含む流域を対象に、水域では水生生物と生息環境・水質・水文に関して、陸域では森林・草地や農耕地の調査・評価方法を修得します。

環境動態学コース

地域資源循環型社会の構築を目指し、地域資源を有効かつ持続的に利用するための、また、人間活動と共存できる生態系を保全・修復するための知識と技術を履修します。土、水、大気、生物及び人工物を介した物質の移動や循環をマイクロ及びマクロの視点から理解・制御する方法や、水や土環境を保全・修復する工学的手法を修得します。

地域工学コース

農村地域や中山間地域が有する地域資源を有効に活用して、地域の豊かな生産環境・生活環境・自然環境を創造・管理・保全するための専門的な基礎学力と技術を、工学的な観点から修得します。また、科学技術が公衆や環境に及ぼす影響(有用性と危険性)並びに責務といった技術者倫理や、必ずしも解が1つではない課題にアプローチするエンジニアリング・デザインについても履修します。

curriculum カリキュラム

環境共生科学科では、各学生が2年次に4つの教育コースから1つを選択します。各コースの科目は互いに特色を有しつつも、密接に関わっています。



	1年次	2年次	3年次	4年次
環境生物学	全学共通教育科目			
	自然科学系学部共通科目 基礎科目	専門科目 (植物病理学概論、土壌微生物学、森林植物学、天敵利用学、森林生態学、共生微生物学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験／実習	専攻実験	
生態環境学	全学共通教育科目			
	自然科学系学部共通科目 基礎科目(植物学、基礎土壌学他)	専門科目 (水環境保全学、水圏生態学、土壌生態学、土壌生化学、汽水域生態学、水質環境工学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験／実習	専攻実験	
環境動態学	全学共通教育科目			
	自然科学系学部共通科目 基礎科目(物理学、水環境学他)	専門科目 (応用数学、環境汚染化学、水と緑の環境工学、植物環境工学、実用分析化学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験／演習	専攻実験	
地域工学	全学共通教育科目			
	自然科学系学部共通科目 基礎科目(地学、基礎水理学他)	専門科目 (土壌物理学、土質工学、構造力学の基礎、水理学、かんがい排水学、流域水文学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験／実習	専攻実験	

豊富な専門講義で幅広く学ぶ

- 水環境保全学 ●水圏生態学 ●土壌生態学 ●汽水域生態学 ●水質環境工学 ●実用分析化学 ●地域計画学 ●水と緑の環境工学 ●バイオマス利用学
- 構造力学 ●水質水文学 ●かんがい排水学 ●農地保全学 ●水利施設工学 ●環境昆虫学 ●共生微生物学 ●植物保護学 ●森林植物学 ●天敵利用学





自然環境中の 多様な生物を科学する

環境生物学コース

環境生物学コースに所属した学生は、2年次に植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態学の専門科目と実験を履修します。3年次になると、1、2年次に学んだ知識と技術を生かして植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態学のいずれかに関する研究課題に各個人で取り組み、4年次に卒業研究として成果を発表します。本コースでは、特に3年次以降に、他学科の専門科目を含む極めて多彩な科目の中から各自の興味、将来設計、就職希望などに適した科目を自由に選択できます。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●学芸員 ●樹木医補 ●食の6次産業化プロデューサー



地域資源循環型社会の 構築を目指す

環境動態学コース

豊かな自然環境と快適な人間生活の共存を実現するために、動的に変化していく自然環境や生態系を調べて理解するための知識と、資源を浪費しない地域社会を実現するための技術を学びます。自然界の物質循環を理解するために、環境汚染化学、水環境学、基礎水理学、水質水文学、基礎土壌学、土壌物理学、実用分析化学、環境分析化学実験などの科目を履修し、また、生態学、水圏生態学などを通して生態系に関する基礎的な知識を得ます。さらに、農地工学、農地保全学、かんがい排水学、水質環境工学、バイオマス利用工学などを履修することで、地域での快適な生活を実現する技術について学びます。そして地域計画学などで得た知識を基に、自然環境と人間生活のバランスの取り方に関する考え方を修得します。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●食の6次産業化プロデューサー



人と自然の共存や 生態系の保全を目指す

生態環境学コース

生態環境学コースでは、生物や生態系に関する基礎知識に加え、それらが息づく水圏や土壌圏の特徴について学びます。基礎的な科目として統計学、生態学、環境生物学、水環境学、基礎土壌学などを履修し、続いて水圏生態学、汽水域生態学、土壌生態学、植物環境工学といった発展的な内容の科目を履修します。これらに加えて、生態系などに関する調査を行うための基礎的な知識や、豊かな自然を守っていくために必要な技術を修得するため水環境保全学、実用分析化学、環境分析化学実験、水質環境工学などの科目を履修します。また、4年次に行う卒業研究の準備として、外書講読、生態環境科学実習や専攻実験といった実習や実験が用意されています。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●学芸員 ●食の6次産業化プロデューサー



地域資源の 有効活用を目指す

地域工学コース

土・水・社会基盤からなる地域資源を整備、維持することで、良好な地域社会を実現するための知識と技術を修得します。良質な農地を実現できる知識を学ぶために、土壌物理学、農地工学、農地保全学、測量学などを履修します。また、水理学、流域水文学、水質水文学、かんがい排水学などの科目を通して、農地へ水を供給するための知識を修得し、土質工学、構造力学、水利施設工学などを学ぶことで、機能的な社会基盤を実現するための知識を得ます。さらには地域計画学、エンジニアリング・デザイン演習などの科目によって、各種の実験・実習で知識の定着と技術の修得を図ります。本コースは日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定コースで、卒業と同時に技術士補(農業部門)の国家資格が得られます。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●測量士補 ●技術士補(農業部門) ●食の6次産業化プロデューサー



4つの研究分野



環境共生科学科の教員は、自然環境と人間生活をより良い形で共存させるために様々な研究を行っています。4つの分野に分かれ、それぞれが特徴的な研究を進めていますが、最終的な目標は同じです。学生は3年次に卒業研究の指導教員を決定し、その教員の指導の下で卒業研究を行い、卒業論文にまとめます。選択している教育コースに関係なく、希望する分野の教員の指導を受けることができます。

【環境生物学分野】環境生物学分野では、環境と生物、生物と生物の相互作用に注目し、生物の多様な生命現象の解明を通して、生物多様性に支えられた豊かで持続可能な農業や生物資源の利活用を目指しています。植物の病気発生機構と防除、昆虫の生態や利用と防除、自然界での微生物の働きと解明と利用、森林の健全な育成と保全などに関する基礎から応用までの幅広い研究を行っています。

【生態環境工学分野】生態環境工学分野では、良好な自然の保全や、すでに失われた自然環境を取り戻すための学問である生態工学をベースに、水環境及び土壌環境の保全修復に取り組んでいます。特に水生生物の調査、微生物や吸着剤による水処理、劣化土壌での持続的生産、有機性廃棄物の有効利用、土壌を用いた水処理などの研究を行っています。
【生物環境情報工学分野】生物環境情報工学分野では、環境と生物の関わりを調べて活用する研究、物質の時空間分布や偏在の情報収集・予測し環境改善する研究や、生物を構成する物質や個体群のパターンをもたらす因子を明らかにし、その情報を応用する研究を行っています。

【地域環境工学分野】地域環境工学分野では、自然環境と調和した地域の社会基盤を実現するための研究を行っています。水・土・社会基盤のそれぞれ

良好に保つための技術や考え方、水や物質の循環を把握し改善する手法などの開発を目指しています。



ここにしかない 自然を活かす



[センターHP]

森林、耕地、海は私たちに不可欠な生活資材や食べ物など様々な生物資源のめぐみを与えるとともに、多様な生物環境を形成しており豊かな人間生活をもたらしています。

附属生物資源教育研究センターは、森林科学部門、農業生産科学部門、海洋生物科学部門の3部門で構成されています。それぞれの部門では、演習林、農場、臨海実験所などの地域を生かした施設を活用して特徴的なフィールド教育研究活動を行っています。

また、自然科学系のみならず人文社会系の学生も履修できる教養科目として「自然と語ろう」を開講しており、さらに他大学生を対象とした公開実習を開講し大学間の教育・研究の連携交流を進めています。

さらに、水が山から里、海に流れていくように、森林、耕地、海の有機的なつながりを意識しながら教養教育、専門教育、さらには社会教育にも積極的に取り組んでいます。



三瓶演習林の広葉樹林、スギ人工林、そして伐採されたヒノキ人工林

■春の農場開放日で桜の切り花展示



■初夏：三瓶演習林の林縁に咲くアケビの雄花(奥)と雌花(手前)



■秋：匹見演習林の秋、マコモの果実の桃色が暖かい



森を訪れ、森を畏れ、 森を学ぶ

森林科学部門
(三瓶演習林・匹見演習林・松江試験地)



三瓶演習林露場に日射計を設置する学生たち

島根大学には、島根県内に三瓶演習林(大田市と飯南町)、匹見演習林(益田市)、そして松江試験地(松江市)の3ヶ所の演習林があります。

森林科学部門は、下記のように様々な研究活動を演習林において展開しています。さらに島根大学における森林に関する教育研究の実践の場として整備された演習林は、森林学コースや環境生物学コースなどのカリキュラムの中で多くの実習教育と卒業研究に利用されています。

あなたもぜひ、島根大学演習林で新しい発見を!

《演習林の長期研究課題》

- 気象観測
- 広葉樹二次林の長期動態
- 森林における酸性雨の影響
- 樹木の展葉落葉フェノロジー
- 小渓流の流量観測

人と環境に やさしい農業とは

農業生産科学部門
(本庄総合農場・神西砂丘農場)



田植え実習

農業生産科学部門では、農業の生産性向上のための技術と人や環境との関わりを体験できる実習を行っています。本庄総合農場(15ha)にある水田、畑、ガラスハウスで様々な作物を栽培し、作物の育て方や肥料・農薬の使用量が環境に及ぼす影響を観察しながら農業と環境の関わりについて学びます。毎年約120名の学生が農場実習に参加します。

研究活動はおもに松江市の本庄総合農場と出雲市の神西砂丘農場で行われ、以下のような研究や調査を教員・技術職員・学生が協力して行っています。

- 栽培作物の生産性向上要因の解析
- 土耕・水耕栽培における生理障害の要因解明
- 新しい作型・栽培技術の開発
- 土壌中の有機・無機成分のモニタリング
- 地域資源を用いた加工品の開発

■要注意!ギンカクラゲ



■タコツボに入って様子を伺うマダコ



生命のオアシス… 海

海洋生物科学部門
(隠岐臨海実験所)



シュノーケリング練習

海洋生物科学部門には、野外教育研究施設として隠岐の島に隠岐臨海実験所があり、3隻の実習船を備えています。実験所の利用は全国に開放されており、公開臨海実習などで多くの大学生が各地から訪れます。

海は実に多様な生命を育てています。臨海実習では、直接、生物とその環境に触れることにより、生物多様性の真の意味、生物の環境への巧妙な適応戦略、生物と人間生活との関連性を学びます。

新鮮な実験材料を利用して、海産無脊椎動物の光感覚、初期発生・生理学的・発生学的研究を行っています。また、近年、日本海沿岸においてミズクラゲやエチゼンクラゲなどの異常発生が多大な漁業被害をもたらしています。それらの異常発生と環境ホルモンなどの環境要因との関連性について調べています。最近、頭足類を使って、生殖システムがどのように進化してきたか、個体、細胞、分子レベルで解き明かす研究プロジェクトが開始されました。

■農業機械の運転実習をしています



自然を究め 持続可能な明日を創る



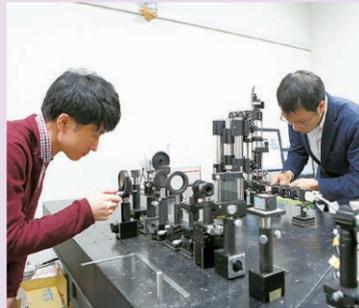
[大学院HP]

course 博士前期課程

自然科学研究科(博士前期課程)は、総合理工学研究科と生物資源科学研究科を融合した平成30年度設置の新しい研究科です。両研究科を統合し、3つの新しい専攻を設置しています。本研究科では確かな専門知識や技術、超スマート社会で主体的な役割を担うための情報技術力、外国語によるコミュニケーション力とグローバルな感性、そして柔軟な発想力を養います。それにより、科学・技術の発展と持続可能な社会の実現に俯瞰的・総合的視点から寄与できる創造性豊かな高度技術者・研究者及びグローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材を養成します。生物資源科学部の各学科からは、主に環境システム科学専攻(環境共生科学コース)、農生命科学専攻(生命科学コース、農林生産学コース)への進学となります。

生物資源科学部からは3つの専攻へ進学

理工学専攻



科学技術や社会の創造に貢献

理工学専攻には、先端材料工学コース、数理科学コース、知能情報デザイン学コース、物理・応用物理学コース、機械・電気電子工学コースが設置されています。本専攻では、数理、物理、情報の基礎知識を身に付け、その知識を基に、数理科学、物理学、情報科学、機械工学、電気電子工学、材料工学の発展に寄与し、新たな科学技術や社会の創造に貢献できる国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

環境システム科学専攻



環境と調和した社会への貢献

環境システム科学専攻には、地球科学コース、環境共生科学コース、物質化学コース、建築デザイン学コースが設置されています。本専攻では、地球科学、環境共生科学、化学、建築学の基礎知識を身に付け、その知識を基に、環境と調和したより豊かな社会の構築に貢献する、実践力と創造力を備えた国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

農生命科学専攻



生命科学と農学の発展に貢献

農生命科学専攻には、生命科学コース、農林生産学コースが設置されています。本専攻では、生命機能を科学する能力を備え、農林生産物を活用するための高度な専門知識・技術・課題解決能力を有し、かつ国際感覚に優れ自立的で人間性豊かな高度技術者・研究者を養成します。

教育の特色・カリキュラム

自然科学研究科では、研究科共通科目という科目群を新たに設け、その中に、研究科内の各専攻の内容を俯瞰できる概論的科目、英語科目、数理・情報・生物学の基礎を学ぶ科目、研究者・技術者としての教養を身に付ける科目、そして実践的な課題解決能力やグローバルな視野を養成する海外インターンシップ科目などがあります。これにより、理工学、環境システム科学、農生命科学を総合的に学ぶことができ、自然科学系の幅広い教養教育が可能です。学部から大学院を含めた5年間又は6年間の一貫プログラムも設置し、優秀な学生は、5年間で学部・大学院を修了できる道も拓かれます。

course 博士後期課程

自然科学研究科(博士後期課程)は、科学技術イノベーションを担う博士人材と広範な理系分野の博士人材を養成するために令和2年度に設置されました。博士後期課程では、「生物」と「非生物」の枠にとらわれない、広い視野を持って新たな分野を切り拓いていける人材を育成するために「創成理工学専攻」の1専攻体制とし、研究科内の各研究分野間に融合教育を推進しています。また、地域社会からのニーズに応える形で整備した博士前期課程における教育研究体制との連続性をもたせるため、創成理工学専攻の教育研究の柱となる領域を「理工学」と「自然環境システム科学」の2つとし、それに対応させて、「理工学コース」と「自然環境システム科学コース」を設置しています。



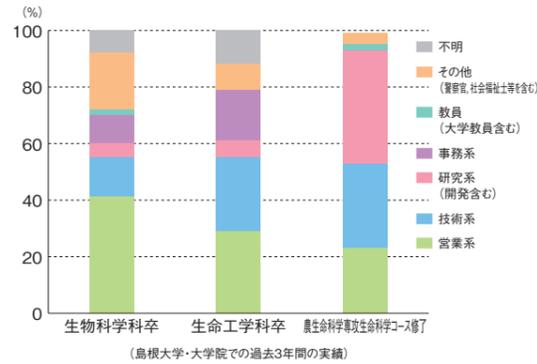
大学院のメリット

就職の選択肢が広がる

大学院を修了して就職しようとする、学部卒業の学生に比べて、研究・開発職に就く割合が非常に高くなるのが過去のデータから示されています。

また、大学院博士前期課程を修了した学生は、さらに学問を究めるために、大学院博士後期課程に進学して博士の学位取得を目指すこともできます。

■就職時の職種の比較(自然科学研究科農生命科学専攻生命科学コースの場合)

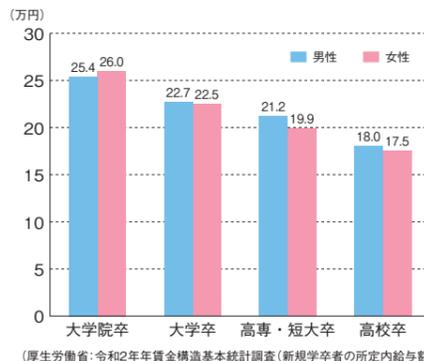


将来の給与に違いが出る

大学院を修了した学生の初任給は、1割程度高くなるのが厚生労働省の調査結果により示されています。学歴が上がれば初任給も上がることから、職業がより専門的かつ高度な内容になると共に、企業も大学院を修了した学生の採用を重視していることが伺えます。

さらに、技術職・研究職では、待遇などの面において男女間の差がなく、給与の面でも差がなくなることがわかります。

■初任給の比較(産業計)



修了生からのメッセージ

明石屋株式会社
営業部 営農米穀課
桐村 史悠さん
2018年(平成30年)3月修了



私は現在、山陰の「食」を支える専門商社である明石屋株式会社に勤務しています。私が所属する営農米穀課では玄米を直接集荷し、全て自社で保管、精米、配送し小売店・外食・事業所給食様へ販売しています。

大学院では、イネの高温障害に関する研究を行いました。生産者様と関わる中で、イネの高温障害に関して協議することがあります。私の研究についてお話しすると喜んでいただけることが多く、関係を深める一つの強みになっています。

大学院は、専門分野に特化した先生方から直接学べ、知見を深めるチャンスに溢れています。社会に出ると知見を深める時間を作ることが難しく、また学べる環境に出会う機会も少ないように感じます。大学院という最高の環境でより充実した人生を歩み、皆さんの将来の可能性が広がることを願っています。



Message from Students!

在学からのメッセージ

生命、生産、環境を科学する技を磨く。
生物資源学部には魅力がいっぱい。
在学生にその魅力を語ってもらいました。



01 田原みのりさん
生命科学科
細胞生物学コース
4年生

好きな生命科学の専門分野で楽しく学ぼう

本学科の魅力は学べる分野の幅が広いところです。1年次では生物学を中心に基本的な知識を身に着けたり、基礎セミナーでは班を組んで、調べ学習やプレゼンテーションを行うなどして生命科学に関する様々な分野の興味を深めたりすることができます。

2年次からは4つのコースに分かれ、自分が学びたい分野についてより深く学ぶことができます。私が所属する細胞生物学コースでは、PCR法を行ったり、顕微鏡でカエルの発生の観察をしたりするなど、様々な興味深い実験を体験することができました。また、隠岐にある臨海実験所で実習する機会もあり、自然豊かな島根の立地を活かした学習を行うことができます。

3年次後期からは研究室に配属され、研究対象の生物を飼育、培養したり、自分の興味に従って研究を行ったりします。本学科は先生の人数が多く、先生方とのコミュニケーションがとりやすいので、疑問点などがあれば丁寧に教えてもらうことができます。このように、本学科には生命科学について学ぶ環境が整っているので、とくに意欲のある人にとっては学びの多い4年間にできるはずですよ。



02 表 拓也さん
生命科学科
食生命科学コース
4年生

幅広く学び、『自分のしたい』を見つける

生命科学科は1年次に生物学や化学などの基本的な知識を幅広く身に付け、講義を受ける中で興味のある分野を探し、2年次に4つのコースから選択します。入学してからすぐに自分のしたいことが明確でない方もじっくり考えながら進路の選択ができるところが魅力的です。生命機能化学コース、食生命科学コースを選択すると医薬系や化学系、食に関する専門的な講義に加えて2年次から3年次の前期まで各研究室の先生方が担当して下さる学生実験が多くあります。初めは慣れないことも多く戸惑うこともあるかと思いますが、早いうちから実際に自分の手を動かすことで座学では学べない実験の楽しさや面白さを学ぶことができると思います。その後3年次の後期からは研究室配属が始まり、自分の卒業研究のテーマを進めていきます。

生命科学科は1年次から段階的に学習する仕組みがあり、『自分のしたい』を模索しながら学ぶ環境があると私は感じました。この環境をうまく活用し、様々なことに興味を持ち、充実した学生生活を送りましょう！



03 田中雄二郎さん
農林生産学科
資源作物・畜産学コース
4年生

好きな専門分野にフォーカスして学びを深める

農林生産学科は農学を中心として学ぶ学科ですが、多くの方は大学に入ってから農学について本格的に学ばれると思います。私も高校当時は農学についてほとんど無知で、ついていけるか不安もありました。しかし、1年次の実習、実験、講義で幅広い知識を得るところから始まり、2年次のコース分属、3年次の研究室配属と進むにつれて、自身の興味のあること、学びたいことにフォーカスを合わせて、より深く専門的な内容を学ぶことができていると思います。

私は現在、資源作物・畜産学コースに所属し、実際に自分で作物あるいは動物の世話をしながら研究を行っています。生き物を相手にしているので大変なところもありますが、座学のみでは学べない様々なことを自分の肌で感じるできるので、とてもいい経験になっていると思います。

農業や自然に興味のある方、ぜひ一緒にこの学科で学んでみませんか？



04 木村 菜々さん
農林生産学科
資源作物・畜産学コース
4年生

仲間と共に楽しく体験できる！

農林生産学科には4つのコースがあり、1年次の実習や講義を踏まえて、2年次から専攻することになります。本学科の魅力は、教室から飛び出して多くの実習・実験を行うため、座学のみでは味わえない体験ができることです。技術の習得もできず、座学とのギャップを感じることもあるため、より深い学びをすることができます。またグループ作業を多く行うため、必然的に多くの人と交流し仲良くなれることも魅力です。本学科では選択できる授業数も多く、自分の興味のある分野を重点的に学ぶことができます。また、逆にまだやりたいことを見つけられていない人も、広く授業を受けることでやりたいことが見つかるので安心して下さい。3年次からは研究室に配属され、自分の研究テーマを決めることになります。最初はわからないことがたくさんあると思いますが、先生や先輩方が優しく教えて下さるので大丈夫です。農学は知れば知るほど面白い学問です。私達と一緒に学んでみませんか？



05 中村 優利さん
環境共生科学科
環境生物学コース
微生物生態学研究室 3年生

幅広く学び好きな分野を深める

私は現在、環境共生科学科の環境生物学コースというコースに所属しています。「環境共生科学科」ときくとどのような学科なのかイメージがなかなか湧きづらいところもあると思いますが、このコースでは「森林」、「昆虫」、「微生物」、「農業」など広い分野について知識を深め、幅広い学びを得ることができます。

コース分属は2年次に行われるため、コースの分属に関して、環境や生物について興味はあるものの大学ではまだやりたいことが明確には決まっていないう方も1年間大学で勉強しつつ考えることができます。私自身も幼いころから生き物について漠然と関心はあったものの特に際立ってこれといった興味のある分野はありませんでした。しかし、大学で興味のある授業や実験を通し微生物についてもっと深く学び研究したいという思いが強まってきました。そこで3年次になった現在は南極土壌の微生物が医薬品への応用やがん細胞の増殖抑制につながるかを研究できればと考えています。皆さんも私たちと一緒に生物や環境について学びませんか？



06 吉田 詩穂さん
環境共生科学科
生態環境学コース
環境技術工学研究室 4年生

興味・関心のある環境について研究しませんか

私は「マイクロプラスチックを介した環境水中の医薬品およびパーソナルケア製品の移動」というテーマで研究をしています。近年マイクロプラスチックによる海域汚染や生態系への影響が問題となっています。マイクロプラスチックは有害有機化合物を吸着する性質を持ち、生物がマイクロプラスチックを誤食することでこれらの化合物が生態系内で濃縮されるからです。また有害有機化合物だけでなく我々が日常的に利用している医薬品やパーソナルケア製品も環境水中に排出されています。マイクロプラスチックと医薬品やパーソナルケア製品の吸着についてはまだ研究が進んでいません。医薬品やパーソナルケア製品の吸着量は環境水中のどのような条件によって変化するかを探索しています。

受験生の頃、私は将来何がしたいのかわからず悩むこともありましたが、しかし島根大学での学習や出会いによりもっと水環境について学びたいと思い島根大学大学院への進学を決意しました。この研究が環境水の汚染を防ぎ、より安全な水の供給に役立てればいいなと思っています。

環境は水だけではなく多くの要素から成り立っています。きっと皆さんが気になる分野があるはずですよ。

Zoom Up! Study!

個性豊かな教員が学生と一体となり、
様々な研究に取り組んでいます。

こんな研究を
やっています!



野外の植物たちの生き様を解き明かす



須貝 杏子 助教

植物は自ら動くことができません。「その場所まで行けば、会えるよ!」、後の指導教員の言葉に乗せられて、野外の植物の研究者になりました。その場所とは?藪漕ぎをして道なき道を進み、双眼鏡で覗いた谷の向こう側へ廻り、無人島に渡って、野外の植物に会いに行きました。木に登って花を観察し、地面に這いつくばってタネや芽生えを探して、研究を進めてきました。彼らは繊細かつ巧妙に、それぞれの場所に適応して生きています。DNAを調べることで、野外での観察だけでは分からない点が明らかになります。さらに再び野外へ行ってみると、新しい世界が広がります。例えば、ある植物はDNAで複数のグループが認識され、グループ間で花の咲く時期がずれていることが分かりました。このようにして、野外の植物の生き様を明らかにしたいと考えています。また、島根県内にどんな植物がどこに、どんな風に分布しているのかについても、学生の皆さんと一緒に調査を進めています。



生態遺伝学

キヌアの国産化へ向けた試み



氏家 和広 准教授

キヌアと呼ばれる雑穀をご存じでしょうか?キヌア(キノア)は、南米アンデス地方を原産とする双子葉植物です。その子実は、カリウムやカルシウムといったミネラルを多く含み、抗酸化作用や血中コレステロール低下作用を持つとされ、機能的食品、健康食品素材として世界中の注目を集めています。

最近では食料品店でもキヌアが販売されていますが、それらはほぼ全てペルーやボリビアからの輸入品です。私はこの優れた穀物を国産化したいと考え、栽培方法に関する研究を進めています。日本とアンデス地方では気候が大きく違いますから、同じように栽培しても上手くはいきません。例えばアンデス地方では、1㎡の土地あたりに1~数株程度のキヌアを栽培します。これは降水量が少なく、あまりたくさん植えてしまうと、成長に必要な水が不足することが主な原因です。日本で栽培する場合には、水不足の心配はありませんので、もっと多くのキヌアを栽培できます(1㎡に100株以上)。むしろ、キヌアは過剰な水分に弱いため、水はけの良い畑で栽培するなどの湿害対策が求められます。このように、日本の気候に合った栽培方法を確立することで、キヌアを山陰地方の特産品にできればと考えています。



資源作物・畜産学

栽培と発電の共存は可能か



谷野 章 教授

地球規模の温暖化と人口増加は、食料生産を担う農業分野に、土地面積当たりの生産量の増大と二酸化炭素排出量の削減を同時に迫っています。温室は栽培不適地や不適期における栽培を可能とし、作物の品質や収量を向上させるので、園芸作物供給拡大の要として大きな期待をかけられています。しかし、地下資源由来の燃料や電力への依存度が高く、農業分野における主要な二酸化炭素排出源となっています。また、燃料や電力価格の上昇は生産者の収益減に直結します。したがって、温室栽培におけるエネルギー消費量を削減しつつ、作物生産効率を高める技術の開発が、重要な目標となっています。このような情勢のもと、温室栽培のエネルギー需要を、太陽光発電エネルギーで賄うための研究に取り組んでいます。作物の光合成と太陽光発電は共に日射をエネルギー源として機能するために、共存させることは簡単ではありませんが、創意工夫で困難を乗り越えて、新しい時代の栽培技術を実現したいと思っています。



植物環境フォトニクス

教員紹介

生命科学科

赤間 一仁 教授 (植物分子生物学)

荒西 太士 教授 (遺伝生態学)

石川 孝博 教授 (応用生物化学)

川向 誠 教授 (遺伝子工学)

塩月 孝博 教授 (生物制御化学)

清水 英寿 教授 (栄養・病態生理学)

西川 彰男 教授 (動物発生生物学)

広橋 教貴 教授 (発生生物学)

松崎 貴 教授 (毛髪生物学)

丸田 隆典 教授 (植物生理生化学)

室田佳恵子 教授 (食品代謝機能学)

山本 達之 教授 (生命分子分光学)

林 蘇娟 教授 (植物進化多様性学)

池田 泉 准教授 (生命有機化学)

石田 秀樹 准教授 (原生物学)

小川 貴央 准教授 (植物分子生理学)

戒能 智宏 准教授 (応用微生物学)

児玉 有紀 准教授 (共生生物学)

地阪 光生 准教授 (食品機能学)

高原 輝彦 准教授 (動物生理生態学)

西村 浩二 准教授 (植物分子細胞工学)

松尾 安浩 准教授 (微生物機能学)

舞木 昭彦 准教授 (理論生態学)

吉清 恵介 准教授 (分子認識工学)

秋廣 高志 助教 (植物細胞生物学)

須貝 杏子 助教 (島嶼生物学)

ヌータラパティ・ヘマンズ 助教 (生命分子分光学・生命分析化学)

山口 陽子 助教 (動物生理学・比較内分泌学)

農林生産学科

浅尾 俊樹 教授 (施設園芸学)

一戸 俊義 教授 (動物生産学)

井上 憲一 教授 (農業経営学)

太田 勝巳 教授 (園芸発育調節学)

小林 伸雄 教授 (園芸育種学・花き園芸学)

松本 敏一 教授 (果樹園芸学・園芸利用学)

吉村 哲彦 教授 (森林利用学・森林情報学)

赤沢 克洋 准教授 (資源管理学)

池浦 博美 准教授 (園芸植物利用学)

氏家 和広 准教授 (作物生理学)

江角 智也 准教授 (園芸生理機能学)

門脇 正行 准教授 (作物学)

小林 和広 准教授 (作物生産学)

高橋絵里奈 准教授 (森林計画学)

田中 秀幸 准教授 (施設園芸学)

中務 明 准教授 (園芸分子育種学)

森 佳子 准教授 (農業経営学)

保永 展利 准教授 (地域経済学)

米 康充 准教授 (森林リモートセンシング学)

足立 文彦 助教 (作物生産学)

渋谷 知暉 助教 (園芸利用学)

城 惣吉 助教 (土壌微生物学)

宋 相憲 助教 (動物生理学)

中間由紀子 助教 (農政学)

環境共生科学科

井藤 和人 教授 (微生物生態学)

上野 誠 教授 (植物病理学)

喜多威知郎 教授 (水・緑利用工学)

木原 淳一 教授 (植物病理学)

桑原 智之 教授 (水圏生態工学)

武田 育郎 教授 (水圏環境工学)

増永 二之 教授 (土壌園生生態工学)

宮永 龍一 教授 (昆虫生態学)

谷野 章 教授 (生物環境工学)

山口 啓子 教授 (水圏生態学)

石井 将幸 准教授 (地域基盤工学)

泉 洋平 准教授 (害虫管理学)

川口 英之 准教授 (森林生態学)

久保満佐子 准教授 (森林生態学)

倉田 健悟 准教授 (汽水域生態学)

栗山 弘介 准教授 (土壌微生物学・農業環境科学)

長縄 貴彦 准教授 (土壌園生生態工学)

橋本 哲 准教授 (森林水文学)

佐藤 邦明 准教授 (土壌園生生態工学)

木原 康孝 講師 (農地環境工学)

上野 和広 助教 (水循環設計工学)

佐藤 裕和 助教 (河川工学)

佐藤 真理 助教 (地盤材料工学)

清水 加耶 助教 (昆虫生態学)

長門 豪 助教 (環境動態学)

林 昌平 助教 (微生物生態学)

深田耕太郎 助教 (土壌環境工学)

藤巻 玲路 助教 (森林生態学)

橋口亜由未 助教 (水圏再生工学・水質環境工学)

吉岡 秀和 助教 (環境数理科学)

吉岡 有美 助教 (流域環境工学)

李 治 助教 (生物環境情報工学)

附属生物資源教育研究センター

[森林科学部門]

山下 多聞 准教授 (森林環境学)

[農業生産科学部門]

松本 真悟 教授 (土壌学・作物栄養学)

[海洋生物科学部門]

吉田 真明 准教授 (進化ゲノム生物学)

小野 廣記 助教 (進化発生学)

■学科別・日程別募集人員

学 科 名	募 集 人 員								合 計	帰 国 生 抜 選
	一 般 選 抜		総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」				特 定 型	合 計		
	前 期 日 程	後 期 日 程	一 般 型	地 域 志 向 (島根県・鳥取県)	地 域 志 向 (全国)	専 門 高 校				
生 命 学 科	40	7	19	6	3	5	3	70	若 干 名	
農 林 生 産 学 科	31	5	15					60	若 干 名	
環 境 共 生 学 科	35	12	14					70	若 干 名	
計	106	24	48	6	3	10	3	200	若 干 名	

- ※1. いずれも、詳細は入学者選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
- ※2. 新型コロナウイルス感染拡大防止措置として内容を変更する可能性がありますので、大学ホームページを随時ご確認ください。
- ※3. へるん入試特定型の地域志向(島根県・鳥取県)、地域志向(全国)及びグローバル英語は、学部全体での募集人員です。

■入試方法

区 分	一 般 選 抜		総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」					帰 国 生 抜 選
	前 期 日 程	後 期 日 程	一 般 型	特 定 型				
				地 域 志 向 (島根県・鳥取県)	地 域 志 向 (全国)	専 門 高 校	グ ローバル英語	
試 験 内 容	大学入学 共通テスト + 個 別 学 力 試 験	大学入学 共通テスト + 面 接	【第1次選考】 出 願 書 類 による選考 【第2次選考】 読 解 ・表 現 力 試 験 + 志 望 理 由 書 を 用 いた「面接」 + 出 願 書 類	読 解 ・表 現 力 試 験 + 志 望 理 由 書 を 用 いた「面接」 + 地 域 志 向 レ ポー ト に 基 づ く 「地 域 志 向 面 接」 + 出 願 書 類	読 解 ・表 現 力 試 験 + 志 望 理 由 書 を 用 いた「面接」 + 地 域 志 向 レ ポー ト に 基 づ く 「地 域 志 向 面 接」 + 出 願 書 類	読 解 ・表 現 力 試 験 + 志 望 理 由 書 を 用 いた「面接」 + 専 門 教 科 の 評 定 及 び 専 門 教 科 に 関 連 す る 資 格 ・ 検 定 + 出 願 書 類	読 解 ・表 現 力 試 験 + 志 望 理 由 書 を 用 いた「面接」 + 英 語 資 格 ・ 検 定 試 験 + グ ローバル英語入試 志 望 理 由 書 に 基 づ く 「英 語 面 接」 + 出 願 書 類	読 解 ・表 現 力 試 験 + 面 接

- ※1. 各学科が大学入学共通テストにおいて課す教科・科目、個別学力試験の科目、配点等については、入学者選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
- ※2. 新型コロナウイルス感染拡大防止措置として内容を変更する可能性がありますので、大学ホームページを随時ご確認ください。
- ※3. へるん入試、一般型の第1次選考は、志願者数が募集人員の概ね3倍を超えた場合に実施することがあります。

■3年次編入学

学 科 名	募 集 人 員		入 試 方 法	
	推 薦 による入試	一 般 入 試	推 薦 による入試	一 般 入 試
生 命 学 科	合 計 15名		推 薦 による入試	一 般 入 試
農 林 生 産 学 科				
環 境 共 生 学 科				

※2021年6月12日(出)に実施しました。

入試情報に関する問い合わせ先

●入学者選抜要項等の請求先
島根大学入試企画課 TEL 0852-32-6073

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
FAX0852-32-9726 [E-mail] epd-nnyushi@office.shimane-u.ac.jp

●入試情報の提供
<https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

島大 入試



2021年は
Webオープンキャンパス
実施!

大学ホームページにお越しください。

●オンライン相談・模擬授業●

8/6(金)

大学ホームページから
お申込みください。

■令和3年度入試 実施状況

学 部	区 分	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者	入 学 者 内 訳 (%)						
							男	女	県 内	県 外	現 役	既 卒	そ の 他
生 物 資 源 学 科	前	106	305	283	127	143	58.4	41.6	15.3	84.7	89.1	10.9	0.0
	後	24	181	56	26								
	総I	70	78	77	59								
	帰国	若干名	1	0	0								
計		200	565	416	212	202							

注. 「前」…前期日程, 「後」…後期日程, 「総I」…総合型選抜I「へるん入試」(センター試験を課さない), 「帰国」…帰国生選抜

■一般入試

学 部	学 科	区 分	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生 物 資 源 学 科	生 命 学 科	前	40	63 (25)	63 (25)	43 (20)	46 (21)
		後	7	48 (27)	15 (8)	8 (4)	
	農 林 生 産 学 科	前	31	101 (43)	95 (39)	44 (21)	47 (22)
		後	5	63 (32)	16 (6)	6 (3)	
	環 境 共 生 学 科	前	35	141 (51)	125 (46)	40 (15)	50 (19)
		後	12	70 (28)	25 (7)	12 (5)	
計			130	486 (206)	339 (131)	153 (68)	143 (62)

注. () 内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

■総合型選抜 I「へるん入試」

学 部	学 科	区 分	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者	
生 物 資 源 学 科	生 命 学 科	一般	19	33[4] (15[1])	32[4] (14[1])	22 (10)	22 (10)	
		一般	15	10[8] (6[1])	10[8] (6[1])	8 (4)	8 (4)	
	農 林 生 産 学 科	専 門	5	7 (1)	7 (1)	5 (1)	5 (1)	
		一般	14	10[13] (4[2])	10[13] (4[2])	9 (4)	9 (4)	
	環 境 共 生 学 科	専 門	5	6 (1)	6 (1)	6 (1)	6 (1)	
		山 陰	6	9 (1)	9 (1)	6 (1)	6 (1)	
	全 学 科	全 国	3	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	
	全 学 科	英 語	3	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	
	計			70	78 (29)	77 (28)	59 (22)	59 (22)

注1. () 内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

注2. [] 内はへるん入試特定型出願者のうち一般型併願者の数を示し、それぞれ外数である。

注3. 「一般」…一般型, 「専 門」…特定型 専 門 高 校 入 試, 「山 陰」…特定型 地 域 志 向 入 試 (島根県・鳥取県), 「全 国」…特定型 地 域 志 向 入 試 (全国), 「英 語」…特定型 グローバル英語入試

■帰国生選抜

学 部	学 科	区 分	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生 物 資 源 学 科	生 命 学 科	—	若干名	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	農 林 生 産 学 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	環 境 共 生 学 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計		—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

就職への強力な支援体制

職種に応じた就職セミナーや面接指導、資格取得プログラムの実施

大学教育センター(キャリア担当)が企画するキャリア・就職ガイダンスや面接練習などの実践指導に加え、在学生の保護者で組織される後援会の支援を受けて、環境庁や企業、就職コンサルタントから講師を招いた学部、学科独自の就職セミナーを実施しています。このセミナーの講師には本学部の卒業生も多く、個々の学生の希望や適性に合った親身な指導を行っています。また、教員免許や学芸員、技術士補など、各種の資格を得るための教育プログラムも充実しています。また、各学科に就職担当の教員を配置し、求人情報の提供や就職活動に対するアドバイスなどをいつでも受けられるようきめ細やかな指導を行っています。



学部卒業後の主な就職先

〈生物科学科〉

奥田商工(株)、(株)スタッフサービス・ホールディングス、(株)ジェイ・シー・ティ、(株)Zeals、(株)ナレッジソフトウェア、(株)SOMPOケア、(福)清章福祉会清住園、(株)共立メンテナンス、島根県警察、松江市職員、エヌアイシー・ソフト(株)、(株)クスリのアオキ、財務省神戸税関、門司税関、兵庫県職員、霧島市役所、防衛省(自衛官・自衛隊・一般職等)、鳥取県高等学校講師(理科)、(株)ロフト、財務省広島国税局、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、松江地方裁判所

〈生命工学科〉

山崎製パン(株)、(株)サンデリカ、(株)ニッセーデリカ、デリカウイング(株)、津山屋製菓(株)、(株)紀文西日本、堂本食品(株)、弓ヶ浜水産(株)、(株)山海、阪大微生物病研究会、食品環境検査協会、三重県環境保全事業団、(株)ダイマツ、(株)林原、JALまね、NOSAI鳥取、日新製菓(株)、扶桑薬品工業(株)、(株)レディ薬局、(株)コスモス薬品、日本電信電話(株)、(株)島根富士通、(株)出雲村田製作所、四国化工機(株)、(株)中国銀行、(株)徳島銀行、(株)伊予銀行、国家公務員[島根労働局、広島国税局]、松江市消防署、地方公務員[島根県、静岡県、大田市、新見市]

〈農林生産学科〉

国家公務員[農林水産省(林野庁、中四国農政局、植物防疫所)、国土交通省(中国地方整備局)、厚生労働省(労働基準監督署)、防衛省(自衛官・自衛隊・一般職等)]、地方公務員[東京都、島根県、広島県、岡山県、鳥取県、兵庫県、高知県、長崎県、宮崎県、北海道、大田市、岡山市、倉敷市、豊岡市、小野市]、高校教諭[島根、広島、鳥取、兵庫、大分、秋田]、(独)農畜産業振興機構、JR西日本、JA岡山、JA鳥取西部、JA香川、JA福山市、ヤンマーアグリジャパン(株)中部近畿支社、リョービ(株)、広島信用金庫、中兵庫信用金庫、明治安田生命保険相互会社、第一生命保険(株)、イオンリテール(株)、(株)イズミ(ゆめタウン・ゆめマート)、森永乳業(株)、井村屋(株)、(株)山田養蜂場、(株)島根ワイナリー、須山木材(株)、伸共木材協同組合、アース製菓(株)、(株)出雲村田製作所、各種農林畜産関連企業

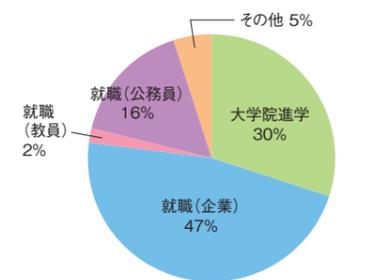
〈地域環境科学科〉

(一財)三重県環境保全事業団、(公財)島根県環境保健公社、(有)道建設、JA兵庫中央会、S.O.W.ホールディングス、SGフィルダー(株)、アサヒコンサルタント(株)、いなみ野いちご畑、イワタニ山陰(株)、オルガノ(株)、クリタ分析センター(株)、コーナン商事(株)、ジオテクノス(株)、モルツウェル(株)、ライト電業(株)、伊藤忠エネクス(株)、岡山県土地改良事業団体連合会、(株)アルペン、(株)ウエスコ、(株)うおいち、(株)コメリ、(株)ヨドバシカメラ、(株)一成、(株)GPA、(株)TFDコーポレーション、広島県公立高等学校、大阪府公立中学校、大分県公立学校、島根県松江市立女子高等学校、松浦市役所、岡山県職員、京都府職員、境港市職員、広島県職員、香川県職員、国税庁、国土交通省、山口県職員、倉敷市職員、鳥取県職員、島根県職員、島根県畜産技術センター、東京消防庁、奈良県職員、南部町職員、農林水産省、姫路市職員、福岡県警察、兵庫県職員、防衛省、北海道職員

大学院進学を応援

生物資源科学科で学んだ後は、より高度な研究に取り組み、高い技術と専門的な知識を深めることができる自然科学研究科への進学を推奨しています。大学院で学ぶことにより、さらに学問の深みを知り、学会発表や論文作成を通して、自身の研究成果を発信する機会が得られ、自分の能力を大きく磨くことができます。希望者は、大学院の授業を学部生の時に聴講することができ、大学院で研究に集中できる時間が作れ、早めの就職活動が可能になります。大学院生は学生指導をするティーチングアシスタントや研究補助をするリサーチアシスタントの業務をすることで収入を得ることができます。大学院を修了した後はより専門的な職種に就くことができます。

■島根大学生物資源科学科卒業者の進路(令和2年度)



大学院修了後の主な就職先

富士通(株)、湧永製菓(株)、万田発酵(株)、池田糖化工業(株)、UHA味覚糖(株)、中外製薬工業(株)、協友アグリ(株)、アドバンテック(株)、AGC若狭化学(株)、(株)誠和、(株)山陰合同銀行、日本たばこ産業(株)、共立製菓(株)、三生医薬(株)、神戸化成(株)、デリカウイング(株)、(公財)東洋食品研究所、(有)日野洋蘭園、(株)たんぼぼ農園、(一社)農山漁村文化協会、(株)村上農園、中国環境(株)、(一財)残留農薬研究所、(一社)隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会、(株)ウエスコ、(株)伏光組、非破壊検査(株)、パナソニック環境エンジニアリング(株)、(一社)岡山県森林協会、三菱ケミカル(株)、(株)海中景観研究所、農林水産省(林野庁)、石原産業(株)、カナツ技建工業(株)、リコージャパン(株)、シンワ技研コンサルタント(株)、島根県職員、岡山県職員、兵庫県職員、福岡県職員、熊本県職員、JALまね、JA鳥取中央、JA全農おいた、島根県立益田翔陽高等学校(農業土木)、岡山市公立中学校(理科)、兵庫県公立高等学校(生物)、(学)京都外国語大学京都西高等学校(理科)、沖縄市立美東中学校(理科)

水の都・松江にある 島根大学松江キャンパスは JR松江駅からバスで約20分



大学構内図〈松江キャンパス〉

- ① 生物資源科学部1号館
- ② 生物資源科学部2号館
- ③ 生物資源科学部3号館
- ④ 教養講義室棟
- ⑤ 附属図書館
- ⑥ 学生センター
- ⑦ 学生支援センター
大学教育センター
- ⑧ 保健管理センター
- ⑨ 学生食堂
- ⑩ 学生会館(生協)
- ⑪ 総合情報処理センター
- ⑫ 法文学部
- ⑬ 教育学部
- ⑭ 人間科学部
- ⑮ 総合理工学部1号館
- ⑯ 総合理工学部2号館
- ⑰ 総合理工学部3号館
- ⑱ 次世代たたら協創センター
- ⑲ 事務局
- ⑳ 学生市民交流ハウス

周辺おすすめスポット



松江城
松江のシンボルで、屋根が千鳥が羽根を広げたように見えることから、「千鳥城」とも呼ばれます。平成27年7月、国宝に指定されました。



八重垣神社
八岐大蛇を退治した素戔嗚尊と稲田姫が新居を構えた場所であることから、「縁結び」の神社として知られています。「鏡の池」では縁の運速を占うコイン占いができます。



島根県立美術館
宍道湖畔に建つ「水の調和」をテーマにした美術館です。水をテーマにした国内外の絵画を収集展示しているほか、島根ゆかりの作家の作品などを展示しています。

アクセス

※時間はあくまで目安です。

✈ 飛行機

東京(羽田)一出雲	約1時間25分
大阪(伊丹)一出雲	約50分
名古屋(小牧)一出雲	約1時間
仙台一出雲	約1時間30分
静岡岡一出雲	約1時間15分
福岡岡一出雲	約1時間5分

※出雲縁結び空港から連絡バス松江行(約30分) JR松江駅下車

東京(羽田)一米子

約1時間20分
※米子鬼太郎空港から連絡バス松江行(約45分) JR松江駅下車

🚆 JR

東京(新幹線)一岡山(特急やくも)一松江	約6時間10分
名古屋(新幹線)一岡山(特急やくも)一松江	約4時間30分
大阪(新幹線)一岡山(特急やくも)一松江	約3時間50分
福岡(新幹線)一岡山(特急やくも)一松江	約4時間30分
岡山(特急やくも)一松江	約2時間35分

🚌 高速バス

東京一松江(JRほか)(夜行バス)	約10時間25分
大阪一松江(JR、一畑、阪急)	約4時間40分
岡山一松江(一畑、両備、JRほか)	約3時間10分
広島一松江(一畑、広電)	約3時間20分
福岡一松江(JR)(夜行バス)	約8時間

🚆 JR松江駅から島根大学まで

〈市営バス〉

北循環線内回り 島根大学前下車

約15分

島根大学・川津行 島根大学前下車

約20分
※他に「平成ニュータウン行」「あじさい団地行」「東高校行」などがあります。

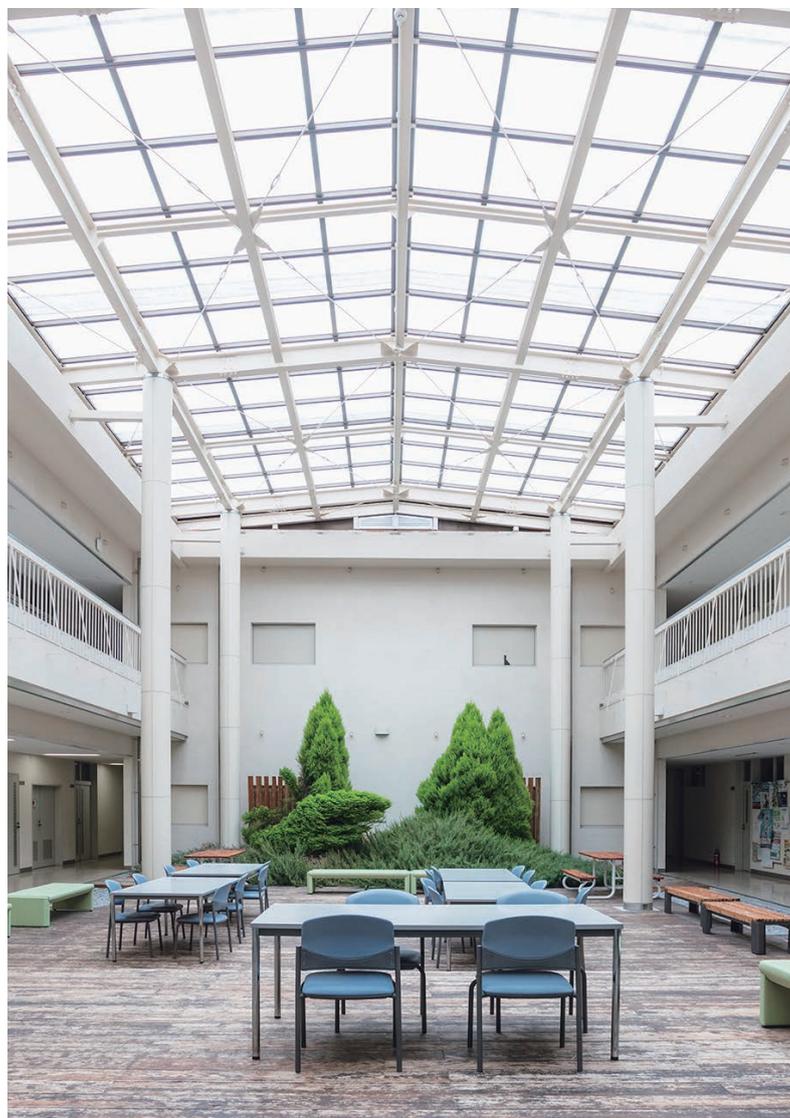
〈一畑バス〉

美保関ターミナル行 島根大学前下車

約20分

マリンゲートしまね行 島根大学前下車

約20分



島根大学生物資源科学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL 0852-32-6493 FAX 0852-32-6499

<https://www.life.shimane-u.ac.jp/>

